

全日本実業団剣道連盟 の沿革

1 全日本実業団剣道連盟設立の経緯

全日本実業団剣道連盟が組織されるまでは「全日本実業団体育連盟」が剣道、柔道、陸上、庭球、駅伝等々多くの競技種目を主管して全国大会を行っていた。

剣道大会はその事業の一つとして昭和二九年に第一回大会を開催し、昭和三二年の第四回大会には九〇団体の参加を得て行われた。この大会準備を特定の当番会社に委ねていたが、年々参加団体が増加する一方で当番会社の負担が大きすぎることから、実業団の剣道関係者の間では、将来の実業団剣道の充実発展を図るためには剣道一本の全国的な独立した連盟を結成する必要があるとの要望が強くなり、全日本剣道連盟の承諾を得て、昭和三二年一月二三日に、発起人有志が東京体育館に相寄り、全日本実業団剣道連盟の設立発起人総会を開催して協議した結果、正式に全日本実業団剣道連盟の設立を決定した。発足当初の役員として

会長 矢野一郎（第一生命保険 社長）

副会長 大谷一雄（住友化学 専務）、石本広一（川鉄商事 専務）、

土川元夫（名古屋鉄道 社長）、野田 孝（阪急百貨店 社長）、

坂内義雄（日本繊維 社長）、宮田正男（三菱地所 副社長）、

武藤秀三（三菱養和会 理事長）、山中義貞（日本ベルト 会長）、
安西正夫（昭和電工 副社長）。

理事長 武藤秀三（副会長兼務）。

理事 大谷一雄、石本広一、土川元夫、野田 孝、宮田正男、安西正夫
（以上副会長兼務）

河合堯晴（日本鉱業 常務）、服部武三郎（服部時計店 取締役）、

小沢親光（大辻炭礦 取締役）。

監事 児玉幸蔵（三井銀行 取締役）、白井貫二（小西酒造 常務）、

森下 泰（森下仁丹 社長）。

の諸氏が選ばれ、実業団剣道の普及発展に向けて第一歩を踏み出すことになった。

2 剣道大会の推移

新発足の全日本実業団剣道連盟は、従来全日本実業団体育連盟が行っていた剣道大会を昭和三二年九月の第四回大会をもって終わりとし、改めて全日本実業団剣道連盟の最初の事業として、昭和三三年九月二日に七五チームの参加を得て東京後楽園ジムナジウムで、第一回全日本実業団剣道大会を開催した。この大会には時の内閣総理大臣 岸信介総理から「内閣総理大臣杯」の寄贈があり、実業団剣道の発展に向かって始動を開始した。

第二回と第五回大会は大阪市中央体育館、第三回大会は名古屋市金山体育館などに会場を移し各企業に対する剣道の啓蒙と実業団剣道の普及に努めた。昭和三九年一月八日の第七回大会から、東京オリンピックの柔道競技会場となった日本武道館の大道場で開催することとした。

昭和四〇年の第八回大会と翌年の第九回大会は、全国を四ブロックに分

けて予選を行いその予選を通過した三六チームが日本武道館で行う中央大会に出場することにした。然しながら、予選落ちチームから、実業団の剣道大会は産業人が剣を交え技量向上を図りつつ、相互の親睦を深めることに意義があるとの意見が続出し、ブロック予選は二回を以って中止した。

昭和四〇年から四八年まで団体対抗戦の他に「得点や勝負に拘らず心の稽古に主眼を置いた剣道こそ実業人の剣道である」と、矢野一郎会長の肝入りで、四五歳以上の剣士を対象とする「道友手合せ」が行われ、剣道範士十段 持田盛二先生他一三名の審査員が採点し、最高点を取得した者に「精妙盃（銀杯）」を贈り「精妙録（巻物）」にその名を記録して、その榮譽を後世に残すことにした。この試みは、勝敗を超越した真の剣技として注目を引き観衆を魅了した。精妙盃の受賞者は次の七名である。

第八回大会 昭和四〇年 大平 康（榎平和相互銀行 本店）

吉田次郎（三菱化成工業株 黒崎工場）

第九回大会 昭和四一年 川上峻司（大日本段ボール株）

第一〇回大会 昭和四二年 桂 弘（東洋レーヨン株）

第一一回大会 昭和四三年 島田喜一郎（川鉄建材株）

第一二回大会 昭和四四年 利岡和人（株シモン）

第一三回大会 昭和四五年 （該当なし）

第一四回大会 昭和四六年 （該当なし）

第一五回大会 昭和四七年 （該当なし）

第一六回大会 昭和四八年 桜庭庄市（三菱化成工業株 本社）

この道友手合せは大会参加チームの増加に伴い、昭和四八年の第一六回大会を以って中止となった。

昭和四六年頃から大会参加数が増加の一途を辿り、昭和五二年の二〇回

大会に二四チーム、昭和六二年の三〇回大会に二五六チーム、平成九年の第四〇回大会には三三九チームが参加している。その後急激な円高と長期に亘る景気低迷により、実業界を取り巻く経済環境は厳しさを増し、平成一二年度に入り、リストラや企業の統廃合、更に企業の倒産等の影響により登録会員の脱退などが目立ち大会参加数も減少傾向をたどった。

平成一八年の半頃から経済状況が好転に向かい、今回（平成一九年）の第五〇回大会では三〇八チームの参加があり、半世紀の締め括りに相応しい記念大会を行うことが出来た。先達が培った輝かしい歴史と伝統を継承し実業人の真の目的である「人間形成・剣業両立・生涯錬磨」の指針を確かめ、会員相互の融和と剣技向上を図り、名実ともに充実した実業団剣道の維持発展を目指して行きたい。

3 改善・変更事項

(1) 試合時間の変更

従来、試合時間は一回戦から決勝戦まで四分間であったが、大会参加数の増加に伴い平成七年の第三八回大会から、一回戦から準々決勝まで三分間、準決勝・決勝戦を四分間に変更した。

(2) 審判員数の変更

従来、実業団剣道大会では一回戦から準々決勝まで二人制によって試合が行われていたが、出場選手のレベルが年々向上しており、勝敗も紙一重のところが決まる。所謂、群雄割拠の時代に入っていることを考慮して、平成九年九月一五日の第四〇回大会から全試合とも三人制に移行し、より公平な判定と試合時間の短縮を図り円滑な運営を行うことにした。

(3)女子並びに高壮年剣道大会の導入

全日本実業団剣道連盟設立四〇周年を記念して、女子剣道大会(団体戦 三人制)と四〇歳以上の高壮年剣道大会を新たに導入し、第一回大会を平成八年三月二日に東京武道館で開催し、平成一九年三月一〇日に第一〇回大会を開催した。この大会の目的は、

①女子剣士には、明るい職場作りと共に日本の将来を担う子女剣士を母親の立場で剣道を勧めていただくこと。

②高壮年剣士には、企業に於ける管理職の立場を利用して、剣道に対する理解をさらに深め「継続は力なり」の精神に基づいて、実業団剣道の発展に尽力して頂くと共に、若手剣士の育成と人格形成の修練の場として自己研鑽に努力して頂くこと。

などを期待して開催することにしたものである。

この大会では、女子審判員を大幅に起用すると共に、女子高段者による日本剣道形の演武も行い、女子剣道の技量向上と普及発展を図ることとしている。

以上

祝50回大会



KENBU-DO
人と武道の明日を考える

豊富な品揃え

建武堂では都内有数の広い売り場スペースに各種商品を豊富に展示しております。是非一度御来店下さい。

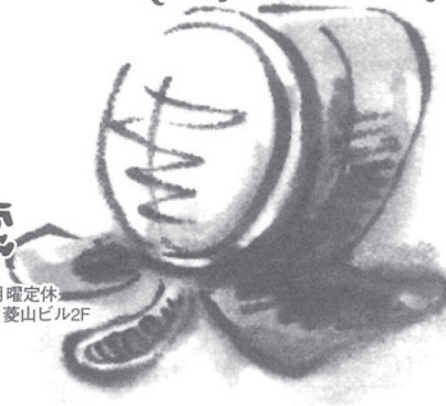
アフターフォロー万全

あなたにあった道具のカウンセリングからアフターフォローまでをサポートいたします。

株式会社 **建武堂**

営業時間AM10:00~PM7:00
(日曜・祭日はPM6:00まで) 毎週月曜定休
〒170-0013東京都豊島区東池袋1-15-1 菱山ビル2F
TEL 03-3971-4840(代)
FAX 03-3971-4461
URL: <http://www.kenbu-do.co.jp/>
e-mail: information@kenbu-do.co.jp

ここまで使って
もらえると
ほんとに嬉しい
建武堂に帰れば
いくら寝れても
また戦える



道具の
つぎは